allcinema

ゴダールの決別（1993）

HELAS POUR MOI

メディア 映画
ジャンル ドラマ　アート
製作国　フランス／スイス
色彩　Color
時間　84分
初公開日 1994/09/03
公開情報 コムストック

【解説】

聖性と言うラディカルなテーマを扱うとき、ゴダール映画もまたごくシンプルに裸の実存を見せてくれる。もちろん夥しい引用と哲学的アフォリズムはなお盛んだが、それが一つのものに還元されていく勢いが全編に満ちていて、無神を信じるのではなく、神について考えないようにしている厭神論者でさえ、この作品の崇高さにはひれ伏して、自分なりの神の像を再び模索し始めるに違いない。スイス・レマン湖のほとりに暮らす平凡な夫婦のもとに、一陣の風のように神は姿を現わす。妻ラシェルはある日不安に襲われ神父に、“自分の相手が夫シモンなのか、神なのか分からない”と告白する。発端は、夫が一晩家を留守にした日。突然帰ってきた夫の様子がまるで別人のようなので、妻が疑惑を口にすると、夫は“僕は君の愛人”で“シモンの身体に乗り移った神”だと宣言し、熱烈に彼女の身体を奪う。それは久しく味わったことのない悦びで、彼女は確かに夫の不在を信じた。果たして、彼はどこに行ったのか？　そして、神とはこのような形で実現してよいものか？　ギリシア神話のゼウス神の人妻との浮気をモチーフに、陽光溢れるリゾート地の風景の中、ゴダールの深遠な問いかけはいつになくストレートに観る者の魂に響く。名優ドパルデューの圧倒的な存在感（近年の肥え方は王者的貫禄を備えさせている）も見もの。“他の遊星から落ちてきた隕石のかけらのように美しい”とのフィガロ紙の評も、まんざら誇張ではない、エンド・クレジットが流れてもなお続く、詩的な映像の連なりはまさに“映画の奇跡”と呼ぶに相応しい。

【クレジット】

監督	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard
製作	アラン・サルド	Alain Sarde
脚本	ジャン＝リュック・ゴダール	Jean-Luc Godard
撮影	カロリーヌ・シャンプティエ	Caroline Champetier
出演	ジェラール・ドパルデュー	Gerard Depardieu
	ロランス・マスリア	
	ベルナール・ヴェルレー	Bernard Verley
	ジャン＝ルイ・ロカ	
	フランソワ・ガーマン	
	ジャン＝ピエール・ミケル	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.